

技術士 2 次試験に合格して



篠原 駿太

(しのはら しゅんた)

勤務先

株式会社 ドーコン

交通事業本部 防災保全部 機電情報設備室

〒060-0001 札幌市中央区北 1 条西 1 丁目 6 番地

TEL 011-801-1576 FAX 011-801-1577

E-mail ss1683@doco.jp

■ 専門：電気電子部門(電気設備)

1. 自己紹介

私は 1990 年(平成 2 年)生まれで、生まれも育ちも北海道です。室蘭工業大学の情報電子工学系学科を卒業し、大学時代から電気通信系の勉強に励んでおりました。大学時代から、この生まれ育った北海道で、大学にて学んだ電気通信分野を活かしながら社会インフラ整備に携わりたいという気持ちが強くありました。現在勤めている株式会社ドーコンは、その想いから入社を決めました。主な業務としては、公共事業における、河川やダムの電気通信設備に係る検討、設計業務などに従事しております。

2. 技術士 2 次試験について

技術士 2 次試験について、私の受験歴や試験対策などについて振り返らせて頂きます。

技術士という資格は、入社した頃から会社の先輩社員が取得を目指しており、建設コンサルタントにおいて非常に重要な資格であることを理解しておりました。2 次試験は入社 5 年目より受験し、令和 3 年度に 5 回目で合格することが出来ました。

(1) 筆記試験

初受験から計 2 回の受験では、試験制度改正前であったため筆記試験の必須科目が択一問題でした。択一問題の技術分野は幅広く、合格レベルまで理解するには非常に苦労しました。結果として択一問題の勉強に力を入れるあまり、記述式論文問題の勉強にまで手を回すことが出来なかったため、結果的に旧制度では合格することが出来ませんでした。

令和元年度より、試験制度改正により必須科目も記述式論文問題となりました。この改正により、論文の作成に力を入れる勉強方法に変わり、結果として私にとっては良かったように思います。

社内では、基本的な論文の書き方など、基礎的な内容から教えて頂き、サポートして頂きました。ま

た、技術士を取得している先輩社員に予想問題を立てて頂き、その問題を解き、添削をして頂くというサイクルで勉強を行いました。

個人で実施した内容としては、キーワードの抽出と単語の意味の整理、過去問の分類と課題・解決策の整理、といった方法で勉強を進めました。当然、解決策は知識が全く無いと書けませんので、この勉強方法は役に立ったと考えております。

受験を繰り返すたびに自信も深まり、5 回目の受験で筆記試験に初合格することが出来ました。

(2) 口頭試験

口頭試験については、社内で最大限のバックアップをして頂き、模擬試験を計 6 回実施して頂きました。模擬試験での回答で良かった点や悪かった点などを振り返り、次に活かすということを繰り返して参りました。結果として、口頭試験は自信を持って受験することができ、無事に合格することが出来ました。私が先輩技術士から受けた言葉で印象に残っているのは、「試験に合格するための近道の勉強をするのではなく、技術士とはこういった存在で、こういった役割を担う者なのか、しっかりと理解し、襟を正して勉強する方が近道だ。」という言葉です。技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)、3 義務 2 責務、技術者倫理など。私はこの試験を通じて得たことを永遠に持ち続け、社会のためになる技術士になりたいと強く思いました。

3. おわりに

技術士に合格することができ、とても嬉しく思います。今後は、継続的に研鑽し、技術士の資格を基により責任感を持ち業務に従事することで、社会に更なる貢献をして参りたいと考えております。

最後に、技術士取得にあたりご指導・ご支援頂いた皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。